

# 博士課程教育リーディングプログラム 平成23年度採択プログラム 中間評価結果

独立行政法人日本学術振興会  
博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局

中央教育審議会大学分科会大学院部会  
平成27年4月6日

# 博士課程教育リーディングプログラム

専門分野の枠を超え俯瞰力と独創力を備え、広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーの養成

- 明確な人材養成像を設定。博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築
- 国内外の多様なセクターから第一級の教員・学生を結集した密接な指導体制による独創的な教育研究を実施
- 世界に先駆け解決すべき人類社会の課題に基づき、産・学・官がプログラムの企画段階から参画。国際性、実践性を備えた研究訓練を行う教育プログラムを実施

⇒ 修了者のキャリアパス、博士が各界各層で活躍していく好循環を確立

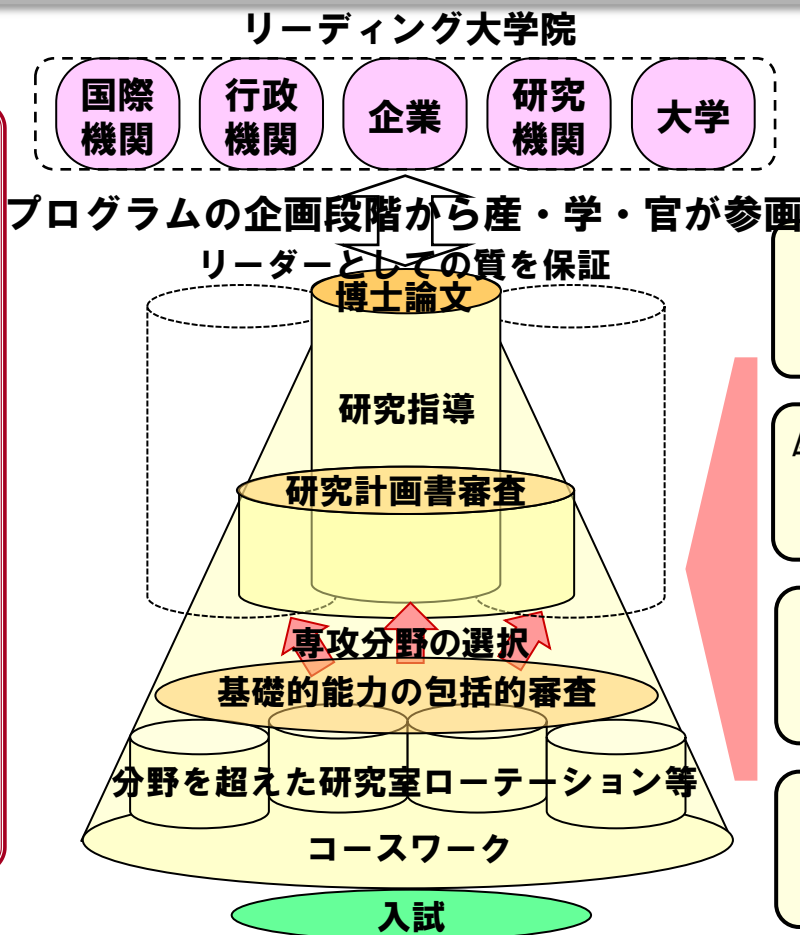
## 【求められるリーダー像】

広く産学官にわたって活躍し国際社会でリーダーシップを発揮する高度な人材

確固たる価値観に基づき、他者と協働しながら勇気を持ってグローバルに行動する力

自ら課題を発見し、仮説を構築し、持てる知識を駆使し独創的に課題に挑む力

高い専門性や国際性はもとより幅広い知識をもとに物事を俯瞰し本質を見抜く力



産・学・官の参画による国際性・実践性を備えた現場での研究訓練

国内外の多様なセクターから第一級の教員を結集した密接な指導体制

優秀な学生が切磋琢磨しながら、主体的・独創的に研究を実践

専門の枠を超え知の基盤を形成する体系的教育と包括的な能力評価

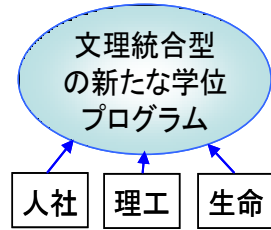
# 「博士課程教育リーディングプログラム」の選定数

養成すべき人材像、取り組むテーマが明確な、博士課程の学位プログラムを構築しようとする構想を、「オールラウンド型」「複合領域型」「オンリーワン型」の類型で最大7年間支援

## 【3つの支援類型】

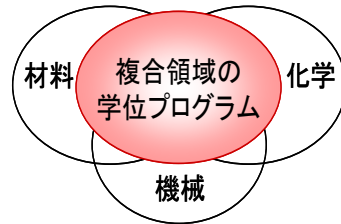
### オールラウンド型

国内外の政財官学界で活躍しグローバル社会を牽引するトップリーダーを養成する、大学の叡智を結集した文理統合型の学位プログラム構築



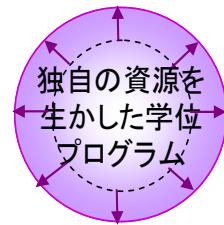
### 複合領域型

人類社会が直面する課題の解決に向けて、産学官等のプロジェクトを統括し、イノベーションを牽引するリーダーを養成する、複数領域を横断した学位プログラム構築



### オンリーワン型

新たな分野を拓くリーダーを養成する、世界的に独自の優れた資源を生かした学位プログラム構築

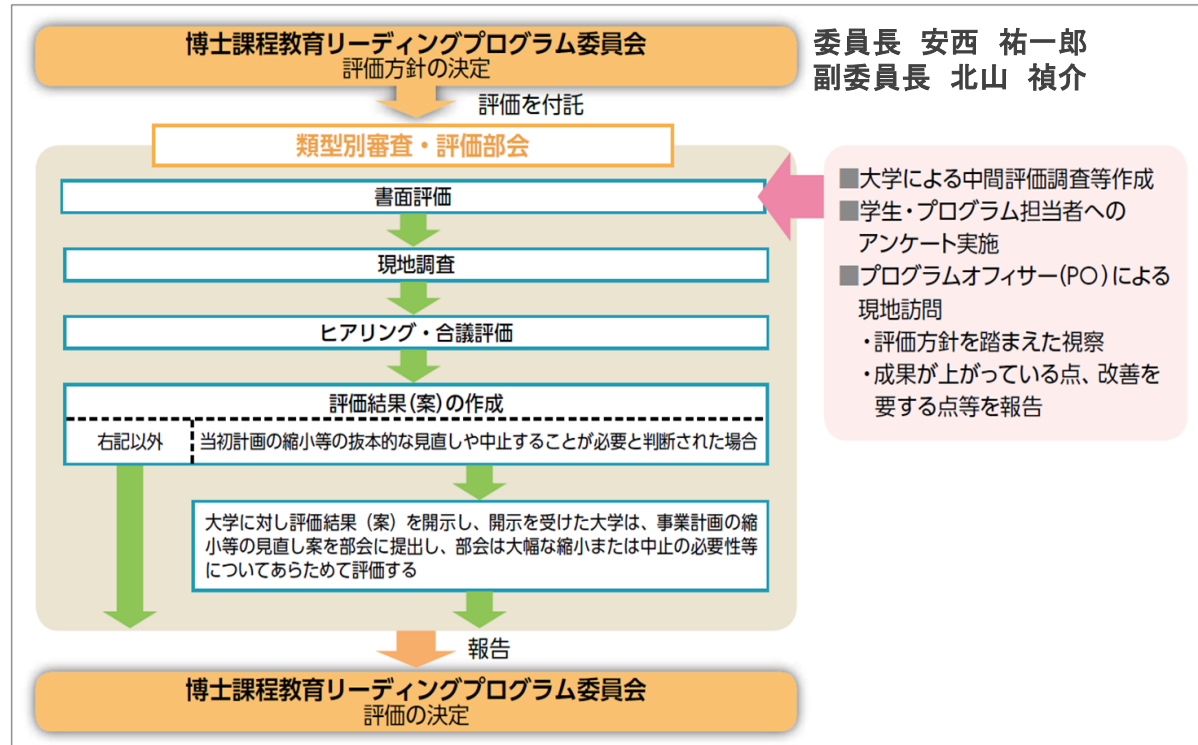


## 【類型と選定数】

類型・テーマ	平成23年度	平成24年度	平成25年度	合計
1. オールラウンド型	3件	2件	2件	7件
2. 複合領域型				
環境	4件	2件		6件
生命健康	4件	2件		6件
物質		3件	3件	6件
情報		3件	4件	7件
多文化共生社会		3件	3件	6件
安全安心	1件	2件		3件
横断的テーマ	2件	2件	2件	6件
3. オンリーワン型	6件	5件	4件	15件
合計	20件	24件	18件	62件

# 中間評価スケジュール

## 中間評価手順



## 採択年度別 スケジュール

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
H23 採択	採択			中間評価			事後評価		
H24 採択		採択			中間評価			事後評価	
H25 採択			採択			中間評価			事後評価

中間評価は採択後4年目に実施  
事後評価は採択後7年目に実施

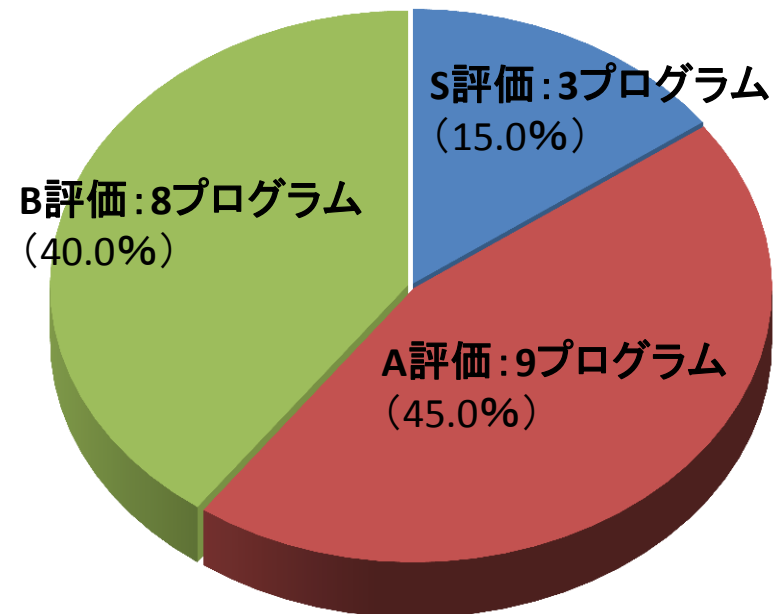
# 平成23年度採択プログラム 中間評価結果

## 中間評価の目的

採択プログラムの進捗状況や継続性・発展性等を評価し、優れた取組を抽出し、それを伸ばしていくこと等を通じて、本事業の目的が十分達成できるよう各大学に対して適切な助言を行うとともに、評価結果に基づいて文部科学省が行う補助金の適正配分や大学院教育の振興施策の検討に資することを目的とする。

## <中間評価結果(全20プログラム)>

- S評価:** 計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A評価:** 計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B評価:** 一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C評価:** 取組に遅れが見られる等、総じて計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の抜本的な見直しを行い、見直し後の計画に応じて財政支援を縮小することが必要である。
- D評価:** 現在までの進捗状況に鑑み、本事業の目的を達成できる見通しが無いと思われるため、当該採択プログラムへの財政支援を中止することが必要である。



# 中間評価結果 類型(テーマ)別一覧

(件)

区分	オールラウンド型	複合領域型 (環境)	複合領域型 (生命健康)	複合領域型 (安全安心)	複合領域型 (横断的 テーマ)	オンリーワン型	合計
S	0	2	0	0	1	0	3
A	2	0	2	0	1	4	9
B	1	2	2	1	0	2	8
C	0	0	0	0	0	0	0
D	0	0	0	0	0	0	0
合計	3	4	4	1	2	6	20

**S評価:** 計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。

**A評価:** 計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

**B評価:** 一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組であり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

# リーダーを養成する学位プログラムの確立

## ◆優れた取組や成果

- ✓ **【分野・研究科を超えた連携】**具体的な問題に即して、主専攻分野と副専攻分野が選択され、研究科間および教員間の有機的な連携が図られている
- ✓ **【分野横断的なカリキュラムの整備】**最先端の講義や実験・実習などのコースワーク、国内外の研究機関や企業でのインターンシップなど、良く配慮されたカリキュラムが策定され、他の領域への横展開も意識した教育が行われている
- ✓ **【学生による分野横断的な活動】**専門の枠を越えて協働することの重要性を理解した学生が育ちつつある

## ◆課題

- ✓ **【博士後期課程のカリキュラム整備】**プログラムの後半におけるカリキュラムの構築が不十分
- ✓ **【新学問領域の定義および大学内での意識共有不足】**基盤となるべき新学問領域の定義、概念が抽象的であり、既存研究科との関係整理も含めて大学執行部並びにプログラム担当者による更なる検討・議論が不可欠

# 産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長および活躍の実現性

## ◆優れた取組や成果

- ✓ **【蝸壺型教育からの脱出】**ディベートを上手く取り入れた授業や産官のリーダーによるセミナーなどによって、学生が蝸壺的な研究に陥らないように配慮され、グローバルリーダーとして広く社会経済を俯瞰できるような教育がなされている
- ✓ **【産業界への人材輩出を意識した教育】**汎用力を涵養する仕組みや、研究の実用化・事業化プロセスに触れる体験も効果的に組み込まれ、学生が企業から高い評価を受けている
- ✓ **【キャリアパス開拓に資する産官学との連携】**産官学から多くの外部機関が参画したカリキュラムが確立され、インターンシップを通じたグローバルな教育や産業界との交流会も充実しており、修了者のキャリアパスの具体的イメージが形成されつつある

## ◆課題

- ✓ **【留学、インターンシップ機会の提供】**学生の学外での主体的な活動をより活発化させるため、また、グローバルリーダーとして身に付けるべき国際性を涵養していくため、海外への留学やインターンシップの機会の更なる充実が望まれる

## グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備

### ◆優れた取組や成果

- ✓ **【国際的視野の涵養】**グローバルインターンシップ制度や国際教育フォーラムの参加、海外メンター制度(異なる分野の外国人教員による定期的な面談)を通じて常に国際的視野を広げることを意識した取組がなされている
- ✓ **【きめ細やかなメンター配置】**年齢構成や産業界出身者の活用などが考慮された参加教員によるメンター制度や産業界若手メンター制度を設け、きめ細かい学生指導がなされている

### ◆課題

- ✓ **【グローバルを意識した環境の整備】**日本人学生が海外で実習や研究を行う体制が整備されていないほか、外国人教員が非常に少なく英語での研究指導を受ける機会が限定されている

## 優秀な学生の獲得

### ◆優れた取組や成果

- ✓ **【多様な媒体・機会を通じた学生獲得方策】**ウェブのほか、海外では国際会議・セミナーの機会などを、国内では大学の社会人教育のための機関などを活用し広報するなど、学内外からの学生募集に努めている
- ✓ **【安定的な経済的支援の整備】**奨励金・RA雇用制度を上手く組み合わせ、学生が安心して研究に没頭できるよう配慮されている

### ◆課題

- ✓ **【学生の多様性の確保】**学生の出身国、出身大学、所属研究室、男女比等に偏りがあり、学生のより一層の多様性の確保に努める必要がある
- ✓ **【キャリアパスの提示】**今後も更なるキャリアパスの明確化や広報強化も含めて努力を続ける必要がある



## 世界に通用する確かな質保証システム

### ◆優れた取組や成果

- ✓ **【世界に通用する質保証システム確立のための工夫】**先端研究に携わっている外国人教員による授業や海外メンター制度、国際評価委員による評価体制など多様な工夫によって保証されている
- ✓ **【産業界を意識した学位審査体制】**3段階(中間審査、博士適性審査、学位審査)の学位審査体制が構築され、審査委員として連携機関からも参画するなど確かな質保証システムが構築されている

### ◆課題

- ✓ **【学問体系の整備】**プログラムの掲げる学問体系を明確化した上で、当該学問を修めたグローバルリーダーに求められる条件、その評価基準及び審査方法をより明確にする必要がある
- ✓ **【学生の所属研究科・専攻における学位審査との峻別】**各専攻での学位審査と本プログラムにおける評価との関係性、及び学生の本プログラムによる修得能力を測るための評価項目とその指標については、より明確に提示されることが望まれる

## 事業の定着・発展

### ◆優れた取組や成果

- ✓ **【学内の緊密な連携体制の構築】**学長の下に設置されたボード会議、プログラム委員会が有機的に連携し、プログラムの進行具合等に関して、現状分析、問題等が継続的に執行部へ伝えられる仕組みが確立している
- ✓ **【既存資源の活用】**大学の資源を活用し、支援期間終了後の恒久化に向けた現実的な対応策を構想している

### ◆課題

- ✓ **【定着・発展に向けた取組不足】**支援期間終了後の学位プログラムのあり方や支援体制が明確ではない

# フォローアップについて

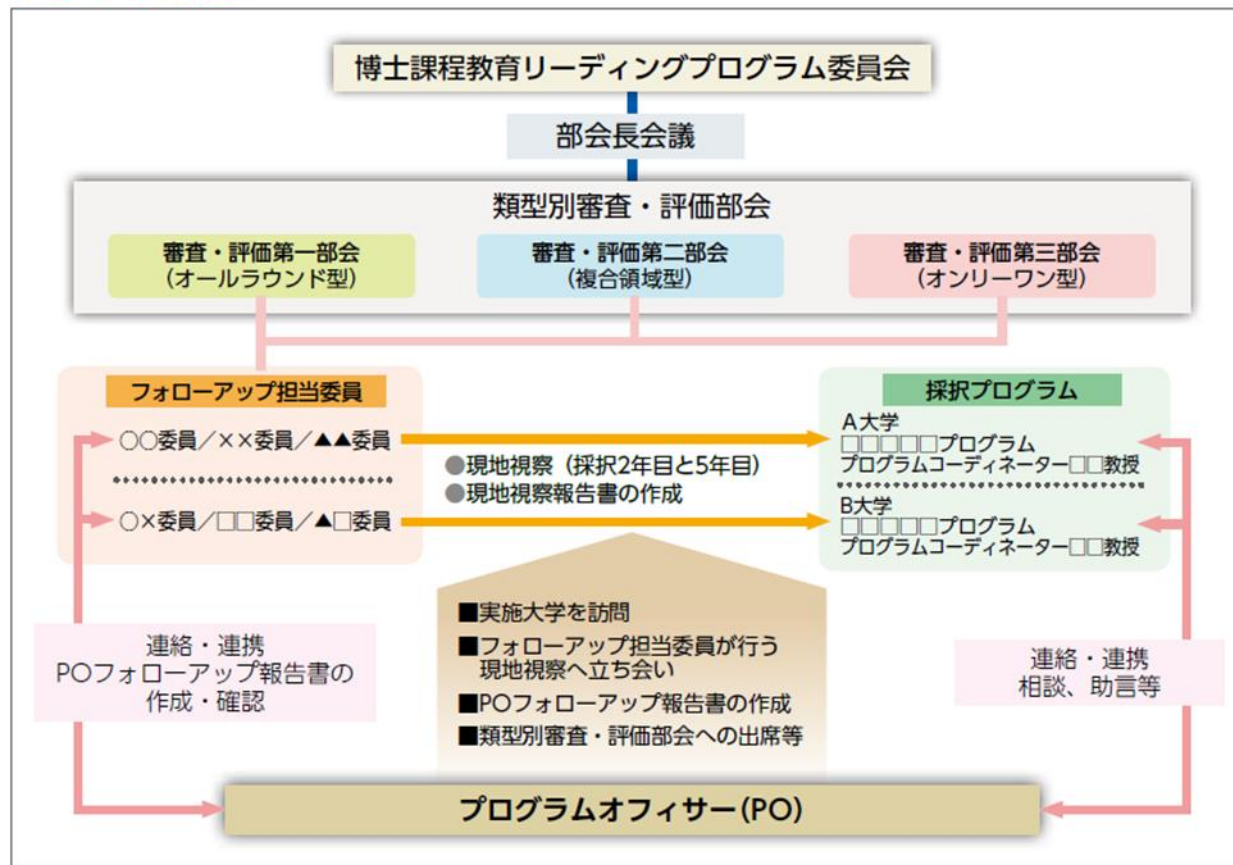
博士課程教育リーディングプログラムではフォローアップ担当委員（原則3名）とプログラムオフィサーによるフォローアップ（大学を訪問し、適正に実施されているかどうかを把握し、必要に応じて指導・助言）を行っている。中間評価の翌年度は、中間評価結果を踏まえたフォローアップを行う。

## スケジュール

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
	現地視察		(中間評価)	現地視察		(事後評価)
				平成27年度		

## 概念図

フォローアップ概念図



# 学生の諸活動(例)①省庁・企業等主催イベントでの受賞等(1)

## EDGE INNOVATION CHALLENGE COMPETITION 2015(エッジコンペ)にて総合優勝

応募者252名より選抜された13チーム61名が参加  
(平成27年2月8日(日))

### 【概要】

文部科学省の産業連携・地域支援課の事業で大学におけるイノベーション人材の育成を支援する「グローバルアントレプレナー育成促進事業(EDGEプログラム)」のアイデアコンペにて、東京大学、東京工業大学、早稲田大学のプログラム学生の混成チームが、**社会人等を押さえて総合優勝**。

テーマ:働く母親と子供の、より良いコミュニケーションにむけて

Gold Award(総合優勝): OYAKOnnect

リーディング大学院に所属する大学院生(東大、東工大、早稲田)の混合チーム。アイデアは全天球型カメラ、音声分析技術、関係性分析技術を用いて、保育園での子供の活動状況や人間関係を母親にタイムリーに伝えるシステム。母親は保育園から送られてくるデータを見て、子供の人間関係や興味を即座に把握し、コミュニケーションを円滑にすることが可能。



【授賞式の様子】

### 【受賞者】

下島 洋(M2):早稲田大学《リーディング理工学博士プログラム》  
水口 佳紀(M2):東京工業大学《情報生命博士教育院》  
安田 翔也(M2):東京工業大学《情報生命博士教育院》  
辻 理絵子(D1):東京工業大学《グローバルリーダー教育院》  
橋 香奈(D1):東京大学《ライフイノベーション・リーディング大学院》



Day1(課題発表) 当日の様子

## GISを用いた医療提供体制のアクセシビリティの評価について -湘南医療圏を用いて-

### 【概要】

世界経済フォーラム本部(スイス)より、5歳から継続している書道の功績と高齢者福祉施設での活動を継続して行ってきた実績などを評価されて、**2015年世界経済フォーラム(ダボス会議)グローバル・シェイパーに選出**。

### 【対象者】

小林 優一 慶應義塾大学  
政策・メディア研究科(M2)  
《超成熟社会発展のサイエンス》

世界経済フォーラム(ダボス会議)グローバル・シェイパーズへ選出頂いた件をお伝えしに、地元の内田康宏市長(愛知県・岡崎市)を表敬訪問



## 第1回「バイオサイエンスグランプリ」にて最優秀賞を受賞

30チーム (バイオ・ヘルスケア分野の研究を行う研究者)が出場  
平成27年1月25日開催

### 【概要】

株式会社リバネス社主催の第1回「バイオサイエンスグランプリ」で、学生2名が所属するチームMetaGen(代表者は慶應義塾大学 先端生命科学研究科 福田真嗣特任准教授)が**最優秀賞を受賞**。このチームにはプログラム担当者の山田拓司講師も参加。プラン名:「便から生み出す健康社会」。

### 【受賞時の写真】



右から、安田、水口。プラン名:「便から生み出す健康社会」

### 【受賞者】

東京工業大学  
《情報生命博士教育院》

水口 佳紀  
生命理工学研究科(M2)  
安田 翔也  
総合理工学研究科(M2)

# 学生の諸活動(例)①省庁・企業等主催イベントでの受賞等(2)

## International Space Apps Challenge Tokyo 2014

165名が参加(平成26年4月13日開催)

### 【概要】

International Space Apps Challenge Tokyo (ISAC Tokyo)は、NASAやJAXAが公開している観測データやAPI(Application Programming Interface)などを利用して、その場で編成したチームでWebアプリやスマホアプリを開発し、競うイベント。今回は、「faamo: FArm-Activating Market Optimizer」という名前のアプリを開発し、**ISAC Tokyo 2014において第3位入賞。**

### 【受賞者】

青木 祐太 東京工業大学  
理工学研究科  
《グローバルリーダー教育院》

「faamo」は、JAXAの衛星データをもとにして、ユーザーが指定した地点と似た農地適性をもつ地点を世界地図上に表示する機能を持つ。同時に、表示された各地点における人口増減状況や物価状況を表示し、その地点における農業の市場潜在性を評価することができる。(一番手前のテーブルの左から2番目が本人。)

### 【当日の所属チームの様子】



## Webとクルマのアイデアソン 「優秀賞」を受賞

平成27年3月28日開催

### 【概要】

総務省、(社)情報通信技術委員会、(社)日本自動車研究所の後援により開催。「Webとクルマのアイデアソン」では自動車の走行状態に関するデータ(位置、スピード、ハンドル切れ角、ブレーキ角度、加速度、燃料消費量、車内温度、ドア開閉状態、など)を元に、Webプラットフォームを活用したアプリやサービスのアイデアを考え、競う。今回は**第2位となる「優秀賞」を受賞。**



### 【当日「優秀賞」を受賞した所属チーム】

今回は、走行状態データをもとに運転者の運転技術进行评估し、かつ改善を促すサービス「人とクルマと社会に優しいデータ教則アプリ」を提案した。(右から2番目が本人。)

### 【受賞者】

青木 祐太 東京工業大学  
理工学研究科  
《グローバルリーダー教育院》

## OECD日本加盟50周年記念学生閣僚理事会の総議長を担当

15か国47名の学生が参加(平成26年11月15-16日開催)

### 【概要】

OECD への学生の関心を高め、国際機関の役割を理解してもらうことなどが目的で、OECD 加盟国等 15 カ国を代表する学生と、シェルパとして各国の学生をサポートする日本人学生、あわせて 47 人が参加した学生閣僚理事会で公共政策大学院 修士課程1年 松岡 広さんが**総議長を担当。**



OECD学生閣僚理事会(右端手前(前列)が松岡広さん)

### 【対象者】

松岡 広 東京大学  
公共政策大学院(M1)  
《ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム》

## JPHACKSでリクルートホールディングスとアクセンチュアの2部門の企業賞を受賞

全国から32 チーム 110 人の学生が参加  
(平成26年12月13、14、20日開催)

### 【概要】

日本最高峰の学生向けハッカソン「JPHACKS」に参加し、「テクノロジーを駆使して、人々の生活を劇的に変える〇〇を開発しよう」というテーマのもと、グランプリを目指して発想力と技術力を競い2期生の和家 尚希氏と鈴木 良平氏(200 OK)が、リクルートホールディングスとアクセンチュアの**2部門の企業賞を受賞。**

Sight 世界が眺こえる感覚拡張デバイス 200 OK

### 【受賞者】

和家 尚希(M1)、安田 翔也(M1)  
東京大学 工学系研究科  
《ソーシャルICT グローバル・クリエイティブリーダー育成プログラム》



【利用したアルゴリズム・製品・技術等】  
SURF (特徴量抽出)  
PCA (特徴量抽出)  
HRTF (虚響合成)  
SuperCollider (音響合成)  
OSGi (連携フレームワーク)  
ヘッドホン  
Webカメラ

プロダクトイメージ。全国から32 チーム 110 人の学生が参加。**2部門受賞はチーム「200 OK」のみ**

# 学生の諸活動(例)①省庁・企業等主催イベントでの受賞等(3)

## 第3回国連防災世界会議PF 世界防災ジュニア会議 グッド減災賞「優秀賞」受賞

2カ国以上約300名が参加(平成27年3月14日)

### 【概要】

「世界防災ジュニア会議」は「減災産業振興会」による第3回国連防災世界会議パブリックフォーラム企画の一つ。上記振興会は本会議にて、未来を担う子供たちが、一つひとつの「おうち」の減災に向けた自助力と共助力を高めるための優れた活動を表彰することで、グローバルな普及を支援。今回、学生が開発した「減災アクションカードゲーム」が「優秀賞」を受賞。

### 【受賞者】

東北大学

《グローバル安全学トップリーダー育成プログラム》

久松明史(工・土木工学)、

山田修司(文・文化科学)、渡邊俊介(理・地学)

牧野嶋文泰(工・土木工学)、

金子亮介(工・バイオロボティクス)

### 【授賞式の様子】



## 日本経済新聞社主催第7回「企業に研究開発してほしい未来の夢」アイデア・コンテスト藤森工業部門にて最優秀賞

### 【概要】

参加企業が示す各社の募集テーマと技術情報をもとに、「企業に研究開発してほしい未来の夢」を提案する、日本経済新聞社が主催、文部科学省等が後援のコンテスト。参加企業中の藤森工業株式会社の募集テーマにて**最優秀賞を受賞**。

### 【授賞式の様子】



### 【受賞者】

京都大学

《充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム》

松本 朋子(M1)、遠野 宏季(M1)

西谷 暢彦(M1)

## 国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト(IVRC2014)にて総合優勝

総エントリー数118チームより選抜された10チームが出場。

【概要】 日本VR学会主催の「国際学生対抗バーチャルリアリティコンテスト(IVRC2014)」に、EMP履修学生のうち人工知能とバーチャルリアリティに興味を持つ学生がチームを組み参加。計4回の審査を通して、作品のコンセプト・技術的新規性・社会的有用性が評価され、**総合優勝賞(1位)**と、**フランスで行われる国際VR展示会“Laval Virtual”派遣賞**、並びに**企業賞であるクリスティ・デジタル・システムズ社賞**を受賞。

### 【授賞式の様子】



子供でしか感じ取れない世界や体験を本質的に再現する、これまでにないワード型身体性変換デバイス「CHILDHOOD」を発表

### 【受賞者】

佐藤 綱祐、高鳥 光、西田 惇

筑波大学 グローバル教育院

一貫制博士課程1年次

《エンパワーメント情報学プログラム》

## IBM Bluemix Challengeにて優秀賞受賞

平成26年9月12日受賞者発表

### 【概要】

IBM の次世代クラウド・プラットフォームである "IBM Bluemix" を活用した、アプリケーションの開発コンテスト「IBM Bluemix Challenge」に、異なる学位プログラム・専攻の学生4名のチーム「aclab team a」で応募。**約300組の応募者の中から3組の受賞者に選ばれ**、開発環境の特徴をとらえたアプリのアイデアと、短期間での実装が評価され**優秀賞を学生で唯一受賞**。



アプリ「Sleeff」を共に開発した、チーム「aclab team a」のメンバー。  
ウェアラブル・センサーJAWBONE UPとカレンダー情報を連携させ、睡眠の時間や質に加えて、体力から最適な睡眠時間をアドバイスするアプリ「Sleeff(スリーフ)」を開発。

### 【受賞者】

小木曾 里樹(一貫制博士課程1年)

筑波大学 グローバル教育院

《エンパワーメント情報学プログラム》<sup>3</sup>

注) 学生の学年は受賞・発表当時

# 学生の諸活動(例)②個人の業績の受賞、学会等での受賞

## IEEE HealthCom 2014でBest Paper Awardを受賞

平成26年10月15-18日開催

### 【概要】

IEEE(The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc.:電気工学・電子工学技術に関する著名な学会)におけるeHealth分野の最重要カンファレンスであるIEEE HealthComにおいて、チーム内でのライフログデータの共有を用いた、「チーム全体の行動変容の促進」について研究を行い、「競争」と「協力」の要素を組み合わせた複数の情報共有モデルを提案、その効果をチームで検証したことが認められ、**Best Paper Award**を受賞。



ブラジルで開催されたIEEE HealthCom 2014での授賞式

### 【受賞者】

西山 勇毅 慶應義塾大学  
政策・メディア研究科(D1)  
《グローバル環境システムリーダープログラム》

## 第4回(平成25年度)日本学術振興会育志賞受賞

### 【概要】

日本学術振興会育志賞は、陛下からの御下賜金により創設され、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士後期課程学生を顕彰する賞であり、毎年度16名程度の博士後期課程学生が表彰されている。大上さんは、「**立体構造情報に基づくタンパク質間相互作用ネットワーク予測**」の研究が認められ受賞。

### 【受賞者】

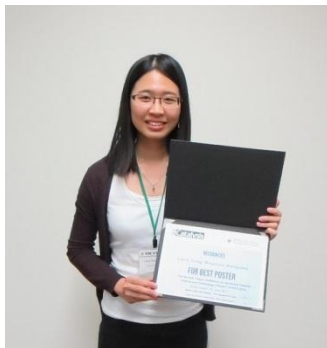
大上 雅史 東京工業大学  
情報理工学研究所(D3)  
《情報生命博士教育院プログラム》



## TOCAT7 Kyoto 2014において「ベストポスター賞」を受賞

参加者数:979名、発表国数:40ヶ国

【概要】 京都テルサで開催された第7回先進触媒科学技術東京カンファレンス(TOCAT7 Kyoto2014)において、米国化学会Catalysis誌推薦による「**ベストポスター賞**」を受賞。



■発表題目:「Gasification of Microalgae (Chlorella Vulgaris) in Supercritical Water Using Ruthenium and Nickel Catalysts」

この研究は、超臨界水条件下での微細藻類のエネルギー変換反応に対する触媒の影響を検討したもので、この反応における触媒選択性が構造鈍感であることを初めて見出した

### 【受賞者】

Laura Tiong Siew Zin  
山梨大学(M2)  
《グリーンエネルギー変換工学》

## 59 th Conference on MMM (Magnetism and Magnetic Materials)でベストポスター賞受賞

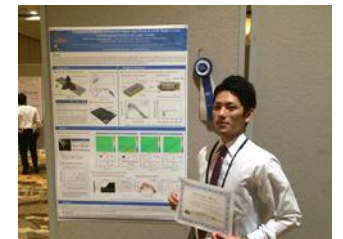
平成26年11月3-7日開催

### 【概要】

「Forward-Volume Spin Waves in YIG with Roughened Surface for Logic Circuit」の研究に対し、磁気分野世界トップカンファレンスである59 th Conference on MMM(アメリカ物理学協会および電気電子学会主催)において、学会賞のひとつである**ベストポスター賞**を受賞。金澤さんは、次世代の情報キャリアであるスピン派の研究を行っており、ヒトの脳のような低消費電力演算器の実現を目指している。

### 【受賞者】

金澤 直輝 豊橋技術科学大学  
工学研究科(D1)  
《超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成》



受賞対象のポスターと表彰状を持つ金澤さん

# 学生の諸活動(例)③社会的活動、学生自主企画

「おいしい三陸応援団」平成26年度東京大学総長賞受賞(社会活動部門)

東京大学《サステナビリティ学グローバルリーダー養成大学院プログラム》  
※ 海洋アライアンス「海洋学際教育プログラム」等との共同プロジェクト



被災事業者に聞き取り調査をする「おいしい三陸応援団」メンバー

## 【概要】

新領域創成科学研究科「サステナビリティ学教育プログラム」と海洋アライアンス(部局横断的な機構組織)「海洋学際教育プログラム」の履修学生が中心となって、岩手県沿岸広域振興局の指定する三陸沿岸の食品加工業に関わる被災事業者に対して継続した取材を行い、震災前、震災時、震災後の取り組みを刻々と発信するウェブサイト「おいしい三陸応援団」(<http://oishiisanriku.com>)の開設・運営を2011年9月から行ってきた。今後の復旧・復興に対する知見を残す一方、被災事業者の過去から未来への新たな歴史を作成する手助けをすることにより、ソフト面から支援をしようとするものである。

常に被災事業者に寄り添ったface to faceの情報発信は、岩手県沿岸広域振興局からも高く評価され、岩手県が関係する様々な震災復興イベントで活動紹介がされてきた。また、活動が重要な社会貢献につながることを期待され、三井物産環境基金からも助成を受けて活動を行ってきた。

## 第二回全国博士課程教育リーディングプログラム学生会議

平成26年6月21-22日開催

### 【概要】

学生が主体となって企画し、全国の62プログラムのリーディング学生に呼びかけ開催されたもの。第二回は熊本大学、九州大学、長崎大学から代表5名が中心となり「博士のEmployabilityと博士教育と社会との接続」をテーマに掲げ、全国から約100名の学生と企業、行政機関のほか、米国特許商標局など幅広い方面からの参画を得て開催された。

### 【委員会メンバー】

呉花 楠(熊本大学)  
登 貴信(九州大学)  
篠原 修平(九州大学)  
平田 宗一郎(熊本大学)  
嶋田 聡(長崎大学)

### 【学生会議の様子】



## 「ワールドカフェ」での討議テーマ

- 1「私たちが博士号を取得したときに、どういう仕事を求めるか？」
- 2「逆に社会が私たちを必要とするものは何か？働くにあたり、私たちに足りないものは何か？」
- 3「現時点で私たちがしてみたいこと、私たちの夢。またそれを実現するためには何が必要か？」

### 【学生からの提案例】

リーディング学生ドラフトミーティングの開催  
～企業に自らアピールする場を設けよう～  
企業への広報・宣伝強化、企業とのワークショップ開催  
～学生の価値をもっと企業に知ってもらおう～  
博士号取得要件の多様化  
～ベンチャー企業の設立、特許取得なども要件に！～